



岩手県県北家畜保健衛生所
岩手県北家畜衛生協議会

目次

新年度を迎えて	1
平成28年度の高病原性鳥インフルエンザの発生から考える！	2
牛白血病の感染拡大を防止しましょう！	3
新採用職員の見聞 / 新体制紹介	4

新年度を迎えて

所長 千葉 伸



養鶏業者・関係各位の方々へ感謝申し上げます！

昨年から国内で猛威をふるった鳥インフルエンザの発生は、家さん農場では9道県12農場に及びましたが、特に青森県や宮城県での発生は、本県の養鶏業者・関係者を震撼させました。幸い、本県での発生に至らなかったことは、家さん飼養者ならび関係機関のご努力の賜物であり大変敬意を表する次第です。今後とも対策の徹底をお願いいたします。

当地域の畜産業は、その産出額が約703億円（平成27年度）と見込まれ、地域の農業産出額の87%を占める重要な産業ですが、今後もインバウンドを振興しようとする県や国の施策を踏まえると、口蹄疫や鳥インフルエンザ等の越境性動物疾病の侵入防止対策がますます重要となります。

また、生産者の減少に反比例して、農場規模は年々拡大しています。そのため、万が一に備えた予防策を徹底する必要があります。

この点を踏まえ、県北畜産の経営を安定的に発展させるための県北広域振興局が掲げるアクションプランの実現に向け、我々は今年度も、家畜衛生の立場から市町村・JAと一体となり、畜産経営の安定に寄与できるよう、『豊かで潤いのある畜産経営が展開できるような支援』をキャッチフレーズに、3つの柱で応援して参ります。

1 監視伝染病の発生を予防し、まん延を防止します。

- ・牛ヨーネ病、鳥インフルエンザなど清浄性確認検査を実施。
- ・牛白血病や牛ウイルス性下痢粘膜病など生産性阻害疾病のまん延防止。

2 畜産物の安全確保に努めます。

生産段階におけるHACCP管理方式やGAPの推進。動物性医薬品の適正使用。
牛肉中放射性物質生体推定検査により、県産牛肉の安全性を担保。

3 意欲ある多様な担い手の確保・育成を応援します。

肉用牛農家の市場前巡回、養豚・肉用鶏の慢性疾病対策による生産性向上支援、各種研修会等の企画、牛飼い女子活動・宮城全共衛生対策を支援

平成28年度の高病原性鳥インフルエンザの発生から考える！

平成28年11月から今年3月にかけて、国内各地の家きん農場及び野鳥において高病原性鳥インフルエンザが多発しました。今回の発生状況の特徴は、①韓国と同時期に北日本から発生、②岩手県の野鳥でも多発、③家きんと野鳥から同タイプのウイルス（H5N6亜型）が検出されたことで、「11月以降、北方から渡鳥によって持ち込まれた本病ウイルスが、当地域でも身近に存在していた！」ことを示唆するものです。しかし、県内の家きん農場で本病が発生しなかったことは、防疫に対する生産者の努力と関係者の指導の成果であります。

今回、宮城県での発生事例では、県南地域の一部が発生農場の半径10km圏内「搬出制限区域」に指定され、本県では初めて防疫対策本部を立ち上げ、24時間体制で主要道路での養鶏関連車両の消毒にあたりました。

去る5月19日、当所では、実際に作業に当たった職員による研修会を行い、養鶏関係者や市町村担当者に対し、情報提供を行いました【写真】。

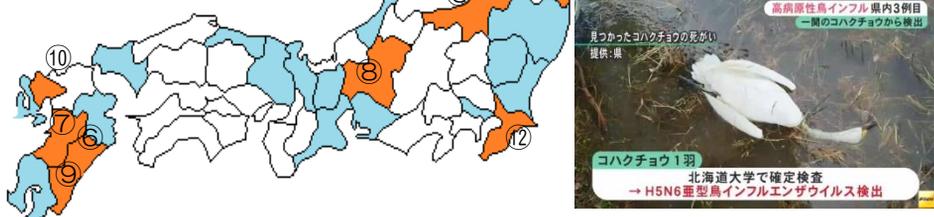
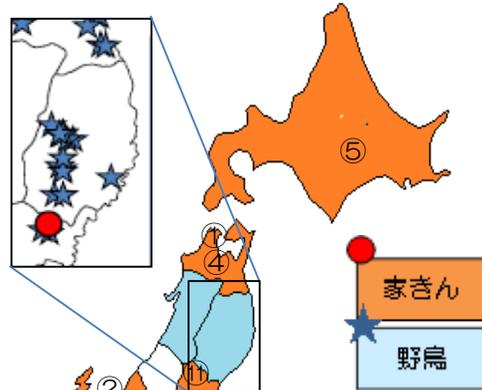
今シーズンの発生状況及び初動対応の経験から得られた知見を、今後の本病発生防止対策と事前防疫体制の改善に生かし、地域一丸となった取り組みを続けていきます。



家きん農場 9県12事例

	発生月日	都道府県	種類
①	11/28	青森県	あひる
②	11/29	新潟県	採卵鶏
③	11/30	新潟県	採卵鶏
④	12/2	青森県	あひる
⑤	12/16	北海道	採卵鶏
⑥	12/19	宮崎県	肉用鶏
⑦	12/27	熊本県	採卵鶏
⑧	1/14	岐阜県	採卵鶏
⑨	1/24	宮崎県	肉用鶏
⑩	2/4	佐賀県	肉用種鶏
⑪	3/24	宮城県	採卵鶏
⑫	3/24	千葉県	採卵鶏

岩手県の野鳥 6市町20事例 (H28.11.23~H29.3.8)



牛白血病の感染拡大を防止しましょう！

牛白血病は白血球が「腫瘍化」する疾病で、主に牛白血病ウイルス（BLV）の感染によって引き起こされます。BLVに感染した牛は生涯ウイルスを持ち続けるため、新たな感染源となし感染を拡大させます。**感染牛のうち、発症する（症状を現す）のは数%**で、発症した牛は必ず死に至ります。ワクチンや治療法はありません。と畜場で発見された場合、全部廃棄されて経済的な損失になります。

【症状】

元気、食欲が減少し消瘦、持続性の下痢または便秘、頸の付け根や骨盤腔内のリンパの腫脹、眼球の突出

【発生状況】

全国的に発生が増加しており、平成28年度、全国で3,129頭、岩手県で135頭が発生しており、そのうち県北家保管内での発生は19頭でした。管内の発生頭数は少ないものの、ここ数年で倍増しています。

【感染経路と感染防止】

BLVは感染牛の血液や乳汁に含まれるため、感染していない牛をこれらに接触させないことが感染防止のポイントです。

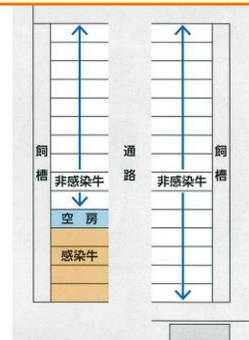
感染経路	感染防止対策
人為的感染 （直検、注射、去勢、除角、削蹄など）	<ul style="list-style-type: none"> 直腸検査用手袋、注射針は1頭ごとに交換 搾乳、除角、削蹄などは非感染牛から実施 使用器具を1頭ごとに洗浄・消毒
吸血昆虫 （アブ、サシバエ）	<ul style="list-style-type: none"> 感染牛と非感染牛の分離飼育・放牧 牛舎の開放部に防虫ネットを設置 忌避剤の使用、アブトラップ設置
接触感染（分娩） 乳汁感染	<ul style="list-style-type: none"> 分娩時の血液は他の牛の接触を防ぐため洗浄・消毒 初乳は完全冷凍または加温（60℃30分）して給与



牛舎の周囲にネット設置



感染牛から非感染牛への虫の移動を阻害



感染牛と非感染牛間に空房

次頁に続く

【管内の対策状況】

平成28年度は久慈市、二戸市、軽米町、九戸村及び洋野町の公共放牧地7か所とその利用農場で対策に取組み、感染の拡大を防止しています。

これからの時期、アブなどが発生し、感染を拡大させるリスクが高まります。愛牛を牛白血病から守るため、感染防止対策に取組みましょう。牛白血病のこと、対策の方法など不明な点は、県北家畜保健衛生所までお問い合わせ下さい。



新採用職員紹介



岩手県県北家畜保健衛生所
大家畜担当

くらさわ こうき
倉澤 広樹



こんにちは。今年の4月から新採用職員として、岩手県県北家畜保健衛生所の大家畜担当になりました、倉澤広樹（くらさわ こうき）です。大学を卒業し、この春、岩手県職員になりました。県北に住むのは初めてなので、近くの観光名所を少しずつ巡ってみようと考えています。

県の家畜衛生を担う家保の一員として、これまで自分を育ててくれた岩手県の力に、少しでもなれるように頑張ります。およそ3ヶ月前までの大学生活とは全く違う環境となり、仕事はまだまだ分からないことばかりで、毎日が新しいことの連続です。不慣れなために、ご迷惑をお掛けすることがあるかもしれませんが、できるだけ早く仕事を身に付け、一人前の獣医師としてお役に立てるようになりたいと思います。今後、ご指導ご鞭撻よろしくお願い致します。

新体制紹介



《発行元・問い合わせ先》

岩手県県北家畜保健衛生所

電話: 0195(49)3006

岩手県北家畜衛生協議会

FAX: 0195(49)3008

電話: 0195(49)3040